

表現発表プロジェクトによる実践的能力の育成

—3段階のパフォーマンスからの考察—

大 野 恵 美・大 塚 習 平・多 胡 綾 花

Developing Comprehensive Abilities Through Public Performance project

Megumi OHNO, Shuhei OTSUKA, Ayaka TAGO

This project, which has been in progress for twenty years with students who are enrolled in the department of early childhood education and childcare in Shohoku college, studies synthetically educational performance at kindergarten and preschool. According to the student's development, they attempt three steps of the project and so they have the experience of planning, practice, reflection and improvement three times in two years of college life. They can develop their power of expression, make a plan, solve a problem, negotiate and settle a matter through this project. In this paper I rethink the meaning of this project, and give our opinion on problems requiring attention.

1. 本プロジェクトの概要と目的

(1) 概要

幼児教育は保育内容5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）が重要な基礎にあり、これがバランス良く実現されることが日々の保育で望まれる。

領域「表現」としての役割は「多様な体験をとおして豊かな感性を育て、創造性を豊かにするよう示されている。保育士は幼児の発達段階に応じて、心の目線を合わせ、子どもの感性を共有し、共感出来る人間性の構築が必要である。

本プロジェクトは「教育・保育の現場における表現活動」を総合的に学習するために、20年にわたって継続、改善を積んできた「表現発表プロジェクト」である。表現教育の基礎である音楽・体育・造形が一体となった作品を、学生が主体となるグループ単位で制作し、学生の成長に応じて3段階

の狙いを変えた表現発表の場を通じて、企画・実践・反省・改善のサイクルを体験することにより、個々の学生の多様な人間の資質を養い、現場で即戦力となる実践的能力を育成する。

(2) 目的

領域「表現」の重要なポイントとなるのが、いかに一人ひとりの子どもを理解し、表現能力のサポートができるかということにある。成長の中で養われた思考とともに、幼児期に体験した多くの事柄を蘇らせ、「環境」のなかで「何をどのように表現する」かを、学生自身が作品制作を通じて、感性を高め、コミュニケーションを養い、総合的な実践力を育成することを目的としている。

2. プロジェクトの実施計画及び内容

「表現発表プロジェクト」は、2年間の学生生活を通して構成されており(図1)、2年次後期に集大成として行われる保育現場での「卒業ステージ出張公演」に向け、1年次後期での「学園祭(湘北祭)パフォーマンス」、2年次前期での「オリエンテーション・パフォーマンス」と段階的に実践研究を積み重ねられるよう計画されている。また、本プロジェクトは、あくまで学生が主体となって企画・構成した内容を主に、「音楽」「体育」「造形」の各専門教員がサポートするスタイルを原則としている。

第一段階である「湘北祭パフォーマンス」は、表現対象が「不特定多数の聴衆」で、表現目的は

「保育の学びを自己表現しよう」である(表1)。入学後間もない6月<説明会・DVD鑑賞>、7月<グループ編成・テーマ決定>、8月<グループ練習>、9月<大道具・小道具制作>、10月<リハーサル>、そして10月中旬<学園祭(湘北祭)>という流れである。

第二段階である「オリエンテーション・パフォーマンス」は、表現対象が「新入生」で、表現目的は「大学生活で大切な事を、楽しく新入生に伝えよう」である。1月中旬に<代表者打合せ>、1月下旬<係分担>、2月下旬<係ごとの打合せ>、3月中旬<中間報告会>、3月下旬<中間発表会>、4月<本番リハーサル>、4月上旬<オリエンテーション>という実施計画である。実施後はアンケート調査をし、<反省会>を設ける。

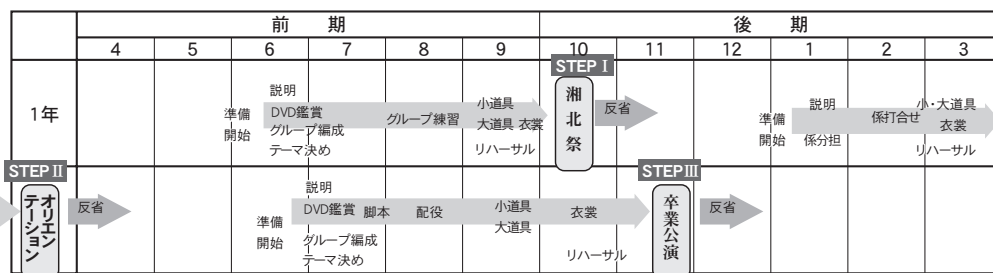





図1 3段階のパフォーマンスの流れ

表1 3段階のパフォーマンスの概要とその狙い

	STEP I 湘北祭	STEP II オリエンテーション	STEP III 卒業ステージ公演
時期	1年後期	2年前期	2年後期
テーマ	自己表現	新入生に伝えたいこと	子どもたちに伝えたいこと
対象	不特定多数	保育学科新入生	保育園・幼稚園の園児
場所	学内(広場)	学内(体育館ほか)	厚木市内10園(園内ステージ)
グループ	A・B (出席番号順)	役割ごとに編成 (人数制限なし)	テーマごとに10班に編成 (1班13名程度)
過去の 実践例			
各段階 の狙い	音楽・体育・造形の学習成果を活かして、いかに自己を表現するかを、自ら考え、実践し、その効果を見る。	1年間の学びから得たものを、表現活動を通していかに的確に新入生に伝達できるかを考え、実践し、その効果を見る。	前2回の活動成果を踏まえて、実際に園児たちの前で発表し、その反応を見て、就職後の教育実践に向けた改善方法を探る。

最終段階である「卒業ステージ出張公演」は、表現対象が「園児」で、表現目的は「表現する楽しさを子ども達に伝えよう」である。7月下旬〈説明会・グループ編制・テーマ設定〉、8・9月〈脚本作成〉、9月末〈中間報告会〉、10月初旬〈配役設定〉〈園との打合せ〉、10月下旬〈第1回中間発表〉、〈小道具・大道具制作〉、11月下旬〈第2回中間発表〉、12月中旬〈出張公演〉、12月下旬〈第1回学内発表会〉、1月中旬〈第2回学内発表会〉、最後に〈反省会〉という流れである。

STEP I「湘北祭パフォーマンス」1年後期

1年次前期6月に表現系の授業の中で、前年度の表現発表記録であるDVD（図2）を鑑賞しながら、動機付けを行う。この際、教員から発表に関する条件や、前年度のレポートをもとに、良かった点や、反省点についても紹介しておく。発表に関する条件が、「表現の対象は学生及び一般の方々であること」「発表は全員が出演すること」「発表は野外で行うこと」「発表時間は35分～40分であること」を確認する。そして、1学年全員（120名程度）を大きくAグループとBグループの2グループに分ける。次に各グループのリーダーを中心に、全員でディスカッションを重ねながら、共通の「テーマ」に沿って「場面構成」や「音楽」、「振り付け」のアウトラインを考案していく。

7月にはアウトラインの考案に並行して、「衣装」や「小道具」、「大道具」の制作についても係を決め、分担して「アイデアスケッチ」や「制作スケジュール」を設定していく。担当教員は大筋において逸れないよう、話し合いに参加し軌道修正のための助言を加えていく。

8月にはグループの中を、さらに「タイトル」に応じた班で分け、班単位で活動を進めていくようにする。ここでは過去二年間の内容を例として具体的な作業について紹介しておく。平成17年度の共通テーマは「カーニバル」と設定された。Aグ

ループは「カーニバル・四季」（図3）とし、春「花と蜜蜂」、夏「花火」、秋「ハロウィン」、冬「クリスマス」で、Bグループは「カーニバル・カラー」（図4）とし、青「航海」、緑「ジャングル」、黄「星と宇宙」、赤「炎」という、それぞれ4つの演目により構成された。平成18年度の共通テーマは「ファンタジー」で、Aグループは「FAIRY TALE」（図5）とし、「妖精」、「ねことねずみ」、「人魚」、「海賊」で、Bグループは「子どもの心を忘れずに」（図6）として「元気（ピエロ）」、「かわいい（雨粒）」、「こわい（魔女）」、「かっこいい（兵隊）」という4つの演目により構成された。

テーマや演目を決めた後、班による練習日程を調整しながら、リハーサルを繰り返し行っていく。リハーサルの度に、テーマと表現内容がより一致したものになっていくよう、グループ間でお互い見せ合い、意見交換をしながら進めていく。

そして9月上旬と10月には、Aグループ、Bグループによる総合リハーサルを行い、教員の助言や指導を受けながら、表現内容についての完成度を高めていく。



図2 湘北祭公演記録 DVD



図3 H17湘北祭「カーニバル・四季」



図4 H17湘北祭「カーニバル・カラー」



図5 H18湘北祭「FAIRY TALE」



図6 H18湘北祭「子どもの心を忘れずに」

学園祭（湘北祭）発表後は、「レポート」を作成し、DVDに記録された映像、その他の資料をもとに「鑑賞会」及び「反省会」を設け、次回の表現活動へとつなげていく。

STEPⅡ「新入生オリエンテーションのためのパフォーマンス」2年前期

新入生（1年生）を対象に、「本学の学生生活で大切な事を、楽しくわかりやすく伝えよう」をテーマとしたパフォーマンスを中心活動とし、プロ

グラムを考案、長年に渡り実施して来ている。学生と教員全員に配布される「オリエンテーションパンフレット」は、〈目的〉〈日程表〉〈1・2年学生班別名簿〉〈班別ミーティングについて〉〈授業や実習について〉〈1年生の委員会・係一覧〉〈2年生の委員会・係一覧〉〈1年生へのメッセージ〉〈サークル紹介〉という内容で構成され、先輩の視点から新入生へ、わかりやすく紹介している。

パフォーマンスの核となる「集いの時間」では「学校行事について」「授業内容」（図7）「実習で気をつけること」（図8）「歓迎の合唱」（図9）等の演目が設定されている。以下、今年度の歓迎会を例に述べていく。「学校行事について」では、ゴミ拾いをしながら登校する〈クリーンキャンペーン〉の様子と注意点を紹介した。「授業内容」では〈音楽〉〈造形〉〈体育〉の授業風景を演劇で紹介した。〈音楽〉では、男子学生がピアノ練習に取り組む様子を通して、ピアノをマスターする事の大変さと、魅力について伝えた。〈造形〉では手軽にできる手作りおもちゃを通して、実習につながる制作の楽しさを味わせた。〈体育〉では班別対抗のバトンリレーを行い、運動の楽しさとチームワークの大切さを伝えた。「実習で気をつけること」では、実習で困った場面と対応策を紹介し、実習後に注意する点についても触れている。「歓迎の合唱」では、2年生全員が1年生に向けて心を込めて歌い上げた。

学生達は自分が表現したい演目を選択し、グループで台本を作成、歌や踊り、演技、制作物を通して1年生にメッセージを送る。授業や実習体験について、保育を学ぼうとする1年生に解りやすく伝え、楽しい学生生活を送って欲しいという願いを込めた表現発表となっている。



図7 集い 授業内容



図8 集い 実習で気をつけること



図9 集い 歓迎の合唱

本プログラムの準備については1年次後期、1月中旬からスタートしている。「オリエンテーション委員」が中心となって全てを考案し、1月末には係分担を行い、各係の目的に応じてディスカッションをくり返した後、2月末に「打合せ会」を設けている。3月から週2回のパフォーマンス練習を行い、3月下旬には、当日の流れを全体で把握していくため、「総合リハーサル」を体育館で行う。そして4月初めに「最終リハーサル」を行い、新

入生を迎えることとなる。尚、「オリエンテーション」後は、毎回「アンケート調査」を行い、オリエンテーションの目的が達成されたかについて確認し、次年度へ向けて改善点をまとめている。

STEPⅢ「卒業ステージ出張公演」2年後期

表現活動プロジェクトの最終段階である「卒業ステージ出張公演」は、2年次後期「表現の指導」の授業を通して行うため、単位取得とも深く関わっている。

過去には、保育園や幼稚園の園児達を会場に招待して公演を行っていたが、「乳幼児を会場まで移動させる事の問題点」や、「普段の生活と異なる場所に来ると緊張してしまう」などの理由により、三年前より市内にある複数の園に学生達が出向き、園児の前で作品を発表する出張公演のスタイルに変えた。出張先は時間の融通がきき、乳児の反応も把握できる保育園が多いが、今年から、新たに幼稚園、子育て支援センターも加え、さらに幅広い層の子ども達と向き合う機会を増やして、取組んでいる。

「卒業ステージ出張公演」への取り組みは、7月の前期試験終了後すぐに、前年度公演した内容を記録したDVDを鑑賞することから始める。この際、教員から「学園祭」の時と同様に、レポートをもとにした講評を紹介しておく。その後、全体（120名程度）を、1グループ13～14名程度でグループに編成する。そして、子ども達に向けて大切と思われる「テーマ」設定のためのディスカッションを、時間をかけて行う。この時、これまで経験して来た「保育実習」や「教育実習」での発見を生かし、子どもたちが園や家庭生活を通じ、様々な体験を積み重ねる中で育つことが期待される心情、意欲、態度を意識し、子どもたちに伝えたいメッセージを明確にしてテーマを決定する。そのテーマは5領域の「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の視点から見ると様々なテーマになる。ち

なみに平成18年度出張公演の各グループの「テーマ」は(表2)に記載するとおりである。「テーマ」が決定したら、「脚本製作」「出演者」「音楽(音響)」「小道具」「大道具」などの係を決め、係を中心に仕事を進めていく。授業時間のみでは十分な時間が確保できないので、夏季休暇期間中に、主に「脚本製作」にあたる。教員はここで、テーマと台本を照らし合わせ、軌道修正をしながら、助言及び指導にあたる。

本格的な準備に取り掛かるのは9月の後期授業開始時からである。休み中の進行状況を確認した後、具体的な「配役」や「役割分担」について決める。この時期、練習と並行して園との打合せを行う。そして10月末には「第一回 中間発表」を行い、11月は練習を重ねながら、「小道具」の作成も進めて行く。11月末に「第二回 中間発表」を行い、「衣装」や「大道具」に関しても制作を進めて行く。教員は各グループの制作過程に付き添い、作品の質を高めるための助言や指導を行う。12月初めに「最終リハーサル」を行い、「出張公演」当日まで、

園や学校事務局と連絡を取り、移動方法や事前・事後の打合せをしていく。「出張公演」の際、保育学科から選出された教員は引率にあたり、ビデオカメラを持参し記録をとる。「出張公演」終了後、レポートを作成する。「子どもたちにテーマを伝える事ができたか」「創作から何を学んだか」「表現する事を今後どう現場につなげていくか」など卒業後の現場に向けての考察が行われる。



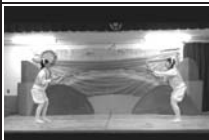







後日「学内公演」を行い、お互いの発表内容について学び合う機会を設ける。各教員が撮影して来たビデオは、一本のDVDとしてまとめられる(図10)。作成されたDVDは次年度の資料として保存する。



図10 卒業ステージ出張公演 DVD

表現発表プロジェクトによる実践的能力の育成

表2 H18年度 卒業ステージ出張公演 作品タイトル・テーマ・公演場所・発表の様子

班	タイトル	テーマ	5 領域	公演場所	発表の様子
1	「サンタさんのプレゼント工場」	ENJOY !	人間関係	依知保育園	
2	「動物学校のクリスマスパーティー」	協力し合うことの大切さ	人間関係	妻田保育園	
3	「虹がかかったよ」	みんな違ってみんないい	人間関係	はやし幼稚園	
4	「なんでも食べる子元気な子」	好き嫌いをしない	健康	けいわ保育園	
5	「みんなで作ろうよ」	協力することの大切さ	人間関係	かねだチャイルド園	
6	「おもちゃ大好き」	物を大切にしよう	環境	YMCAあつぎ保育園 ホサナ	
7	「リサイクル」	環境問題	環境	岡田保育園	
8	「みんなちがって、みんないい！」	みんな違ってみんないい	人間関係	荻野すみれ愛児園	
9	「僕とわがまま王子」	思いやりを持つこと	人間関係	あゆのこ保育園	
10	「栄養満点」	バランスよく沢山食べよう	健康	ファミリーサポート センター	

2. プロジェクトの特色について

前述したように「表現発表プロジェクト」は、基本的には学生自らが「企画・製作・発表・自己評価」を繰り返す総合学習である。最終ステージとなる保育現場での発表に向け、1年次から2年次へと3段階のステップが設定されており、学生は「発表の対象」を、「不特定多数の聴衆」から「新入生」へ、さらに「乳幼児」へと絞り込んでいく。学生が将来、保育者として表現活動に取り組んでいく事を考えれば、「子どもを対象とした表現活動のみに終始していれば良い」と考えがちであるが、それでは学生が潜在的に持っている表現の幅を、狭めてしまうことになりかねない。本プロジェクトでは、学生が大学1年生の段階で「表現したこと」「表現できること」に、精一杯取り組む機会を与えるという点にも考慮している。

また、子どもから大人まで対応できる表現能力を備えて初めて、「園児向けに配慮してあげなければならない点は何か」について、深い理解を得られる事となる。さらに、大人が感動するようなレベルの表現内容であれば、やはり子どもといえども感動するという事も、長年の経験からいえる一つの真実である。

これらの点を踏まえた上で、学生達は「誰に向けて」「何のために」「どのようにして」表現していくのかについて、一步一步STEPを踏みながら考えていく事となる。その過程で、最初はどちらかといえば、「自分が表現して楽しい内容」だったものが、「表現を通して伝えたいこと」へと、自然な形で進化している点が注目される。教員は主に「音楽」「体育」「造形」の専門教員が携わっているが、学生のイメージの具現化に向け、助言や指導を重ねていく。学生達が3つのSTEPを踏んで行くに従い、教員側からの助言や指導内容も、具体的かつ高度なものになっていくのである。

また「表現発表プロジェクト」は、発表に盛り込まれた「多様な表現内容」が特徴である。特に、3つのSTEPの最終段階である「卒業ステージ出張公演」に表現内容の全てが集約されている。具体的な内容としては「手遊び」(図11),「合唱」(図12),「ピアノカ」(図13),「パクパク人形」(図14),「人形劇」(図15),「バルーンアート」(図16),「デビルスティック」(図17),「ジャグリング」(図18),「マスゲーム」(図19),「合奏」(図20),「フープ」(図21),「ポンポン」(図22),「モール」(図23),「縄跳び」(図24),「すずらんテープの虹」(図25),「フォークを使ったダンス」(図26),「バトン」(図27),「組体操」(図28),「ボール曲芸」(図29),「切り絵」(図30),「連結人形」(図31),「リサイクル楽器」(図32),「シュガーボックス」(図33),「手品」(図34),「創作絵本読み聞かせ」(図35),「体操」(図36)などである。これらの多彩な発表内容を、乳幼児にもわかりやすく伝えるため、作品は一つのストーリーでつながられているので「演劇」が、全てのグループのベースとなっている。

～H17度卒業ステージ出張公演～



図11 「手遊び」



図12 「合唱」



図13 「ピアニカ」



図14 「パクパク人形」



図15 「人形劇」



図16 「バルーンアート」



図17 「デビルスティック」



図18 「ジャグリング」



図19 「マスゲーム」

～H18度卒業ステージ出張公演～



図20 「合奏」



図24 「縄跳び」



図21 「フープ」



図25 「すずらんテープの虹」



図22 「ポンポン」



図26 「フォークを使ったダンス」



図23 「モール」



図27 「バトン」



図28 「組体操」



図29 「ボール曲芸」



図30 「切り絵」



図31 「連結人形」



図32 「リサイクル楽器」



図33 「シュガーボックス」



図34 「手品」



図35 「創作絵本読み聞かせ」



図36 「体操」

4. プロジェクトの有効性について

(1) 学生レポートによる各ステップの振り返り

「表現発表プロジェクト」では、段階ごとにステップアップしていくために、「企画—実践—反省」の「PLAN-DO-SEE」のサイクルを大切にしている。そのために活動後に必ず活動後の振り返りを行っており、自分たちが発表した作品のVTRを見て、グループごとに反省会を行っている。また一人一人の活動の取り組みを振り返るレポートを書いている(表3)。こうすることによって、活動においての反省点が明らかになり、次への課題が見つかる。こうした積み重ねによってステップアップができるのであり、保育の現場に出た時に日々の保育を振り返り、次の保育につなげていく保育者としての基本的姿勢を身につけることができる。また、この「振り返り(SEE)」は学生だけでなく、教員も同じく行っている。活動後、参加学生にアンケートを行い、その結果を分析し、活動内容や進め方、指導体制の見直しを図っている。

STEP I 湘北祭パフォーマンス

初めて人前で表現を経験した1年生のレポートには「練習が大変であった」、「友だちの輪が広がった」、「一つのものを作り上げる感動を味わった」とある。練習の大変さを感じながら、この活動を通して友だちの輪が広がり、みんなで協力して作り上げていくことの楽しさや喜びを味わっている。また「自分の意見を相手に示すこと、また相手の意見を聞くことなど、多くのことを学んだ」とあるように、他者を認め、尊重すること、そして自分の意見をしっかり持つことなど、対人関係に必要なスキルを学んでいる。このように、1年生の湘北祭では作品づくりをしていく基本的姿勢と人とコミュニケーションするために必要な力を身に付けるのである。

STEP II 新入生オリエンテーション

オリエンテーションでは、ほとんどの学生が「大学生活の楽しさや大切なことを1年生に知ってもらえることができた」、「親睦を深めることができた」と答え、オリエンテーションの目的はおおむね達成できたとしている。「自分の知っていることを何も知らない相手に伝えることは難しい」、「伝えたいことをコンパクトにすること」は大変であったとあり(図39)、自分たちが経験したことを一年生に要点にまとめた的確に表現し、伝えることの難しさを感じている。また「1年生を飽きさせないための工夫」が大変であったとあるように、1年生が楽しく一日を過ごせるように企画・立案・実施していくことがどれほど大変なことかを感じている。このようにオリエンテーションでは、人に伝えるためには内容をまとめ、明確に伝えなければいけないということ、また人を飽きさせない工夫をしながら、環境を整え、一日を構成していくことの難しさを学んでいる。

STEP III 卒業ステージ出張公演

出張公演のレポートには、「予想外の子どもの反応に驚いた」、「真剣に子どもたちが見てくれてうれしかった」、「表現について、いろいろ学んだ、工夫した」、「子どもたちの目線で作品づくりをした」とあるように、表現を行う対象をきちんと意識した作品づくり、表現活動を行っているということが分かる。しかし、子どもたちは学生たちの思いどおりの反応はせず、予想外な子どもたちの反応に戸惑いながら、この公演を通して、一つの枠に捉われずに子どものことを考えること、子どもたちの反応に柔軟に対応していくことの大切さを学んでいる。子どもの目線で物事を捉え、考えること、これは子どものためのかけがえのない一日を企画・立案・保育していく保育士にとって大切な力である。

このように「表現発表プロジェクト」を通して、

学生たちは、仲間とともに作品づくりを行う中で、その対象にむけた的確な表現を追及するまで表現する楽しさを知り、表現力や協調性やコミュニケーション能力を養う。さらに表現対象を意識し、に成長していくのである。

表3 学生レポート（抜粋）

<p>1年生 湘北祭</p> <p>●練習が大変であった 夏休みに毎日ある練習に行きたくないと思った。 練習に出るのが面倒くさくなったり、遠曲や踊りを考えるのが面倒くさくなってしまう時もあった。 毎日毎日練習があって、疲れたまったり、思うように練習が進まなかったりすると「もう嫌だ」と思った。</p> <p>●友達の輪が広がった 今まで話したことの無かった人と話せるようになって、良かった。 保育学科のみんななどの心の距離が縮まった。 湘北祭のおかげで新しい友達もたくさん増えたので良かった。</p> <p>●一つのものを作り上げる感動を味わった。 みんなで協力して一つのものをつくり上げる楽しさ、大変さ、感動を知った。 みんなで一つのものを作り上げることがこんなに感動できることで、こんなに楽しいことなんだと知らなかった。 一人一人が力を合わせることでとても大きな力となって、人を感動させることができるのだと実感した。</p> <p>●人間関係を学んだ。 自分の意見を相手に示すこと、また相手の意見を聞くことなど、多くのことを学んだ。 自分の意見を他の人に伝えるということ、時には人の意見に合わせるということも学んだ。 人間誰しも同じ意見であるはずもないことを強く実感し、皆の意見をまとめることの大変さを感じた。 グループの中での自分の役割というものを考えなければいけないということも学んだ。</p>
<p>2年生 オリエンテーション</p> <p>●オリエンテーションの目的を達成できた 1年生に楽しかったと言ってもらい、嬉しかった。 集いで湘北の良さを伝えられたと思う 今まで教わったこと、経験してきたことを活かすことができた</p> <p>●勉強になった 自分が知っていること何も知らない相手に伝えることの難しさ 短時間で集中して物事に取り組む工夫 普段関わりのない人の表現を見て、勉強になった。</p> <p>●大変だった 新入生がわかるように伝える工夫 伝えたいことをコンパクトにすること 1年生をあきさせないための工夫</p> <p>●現場にいきる 新入園児に早く慣れてもらう工夫だとか、アレンジできる 台詞を言った経験や身体を使って表現することは子どもにむけて話すときにいきる 準備にどれくらいかかるか、そのために自分は今何をすべきか、考えて動くこと</p>
<p>2年生 卒業ステージ出張公演</p> <p>●予想外の子どもたちの反応に驚いた 子どもの思いがけない反応に驚き、予想外に反応がなく、困ったりした。 顔を隠して黒子になったら、子どもに泣かれてしまった。大人と子どもの視点は違うと感じた。 子どもたちが笑うところは予想とはずれていた。</p> <p>●真剣に子どもたちが見てくれてうれしかった 参加型の場面では子どもたちの楽しそうな様子を見ることができた。 子どもたちが目を開き、ぼかんと開けてじっと見てくれる姿が印象的だった。 「そんなことをしたらだめだよ」と子どもたちが言ってくれ、とても集中して見てくれていたことが嬉しかった。</p> <p>●子どもたちの目線での作品づくりをした 子どもたちから見て見にくいなど意見が出るなど、子どもたちが楽しめる空間作りをした 子どもたちをびっくりさせることを取り入れた。 いかに子どもに楽しんでもらうか、苦戦した。</p> <p>●表現について、いろいろ学んだ、工夫した。 子どもたちにどのように表現したら伝わるのか、子どもの視線・間の取り方、台詞まわし、細かいところまでこだわった。 キャラクターになりきり、その特徴を捉えて演じることで、子どもたちにより伝わりやすいと実感した。 目的があってもものを使う必要な小道具もあるが、物をなるべく使わず、身体で表現できることを学んだ。</p> <p>●就職活動との両立が大変であった 就職活動と平衡しての練習は大変であった。 就職活動もあり、体力的にも精神的にもつらかった。 就職活動と卒業研究発表会と重なっていた大変であった</p> <p>●この経験を現場にいかしたい この経験はきっとこの先さまざまな場面で役立つと思う。 来年から教諭としてこのようなことを行う際に役立てていきたい。 このように演技したり、踊りを考えたりすることは、保育の現場に立つ時絶対役立つと思う。</p>

(2) 学生アンケートによる最終ステップの考察

学生たちが本プロジェクトを通して、何を学び、学んだことを現場に出た時にどのように活かし、つなげようとしているのかについて、活動を積み重ね、すぐ目の前に迫った現場を意識して行った最終段階の卒業ステージ出張公演後の学生アンケートより詳しく見ていく。

出張公演に「参加して良かったか」という質問にほとんどの学生が「良かった」(図37)、そして「楽しかった」と答えている(図38)。何が「楽しかった」というと、「子どもたちの前で発表したこと」「子どもたちと交流できたこと」と子どもたちとの関わりを挙げている。子どもたちのために準備して、子どもたちのために表現することの喜びをこの活動を通して、実感している。次に「一つの物を作り上げたこと」「みんなで協力したこと」と、他者と協力して作り上げる喜びや達成感をこの活動から味わうことができたとある。

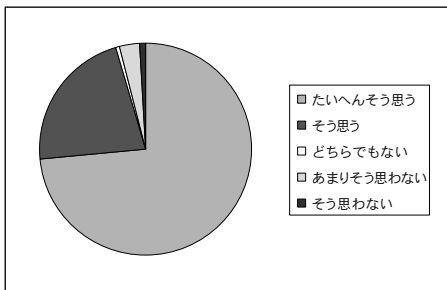


図37 参加して良かったか

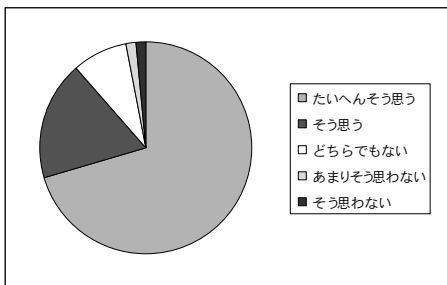


図38 楽しかったか

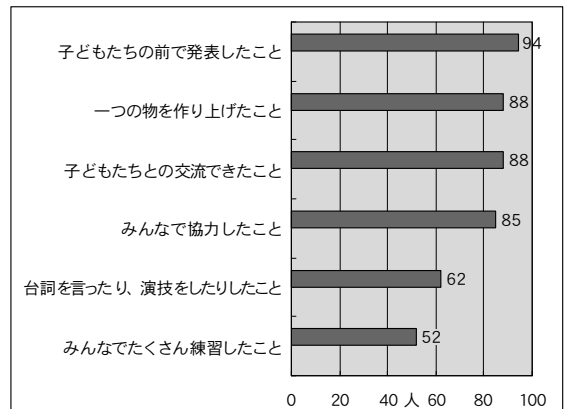


図39 どんなことが楽しかったか

そして、「出張公演は大変であったか」という質問にはほとんどの学生が「大変であった」と回答している(図40)。何が大変であったかという一番に挙げているのは、制作過程の「ストーリーや台本」である(図41)。子どもたちに分かりやすく、そして楽しめるストーリーを考えることは学生にとっては非常に難しいことであるようだ。しかし、この経験を通して発想を豊かに考えることを学生たちは学べたのではないだろうか。次に制作過程の「パフォーマンスやダンス」や表現活動の「パフォーマンスやダンス」、「演技」が挙げられている。大学入学前に人前で表現などしたことがなかった学生が人前で堂々と演じ、表現できるようになるには本人の努力と気持ちが必要である。大変であるからこそ、それを乗り越えることで、人前で堂々と身体で表現することができる表現力を身につけることができるのであろう。そして次は「練習に全員が揃わないこと」とある。全員が揃わず、なかなか練習が進まないことを挙げている。就職活動も重なり、多くのグループがこの問題に直面するが、こういう状況を経験することによって、いかに効率よく物事を進めていくのかということ学ぶことができ、忙しい現場で働く心構えにつながるのではないだろうか。

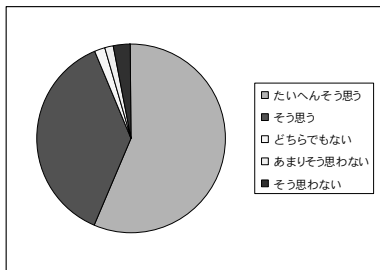


図40 大変だったか

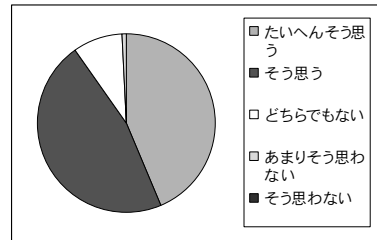


図42 力がついたか

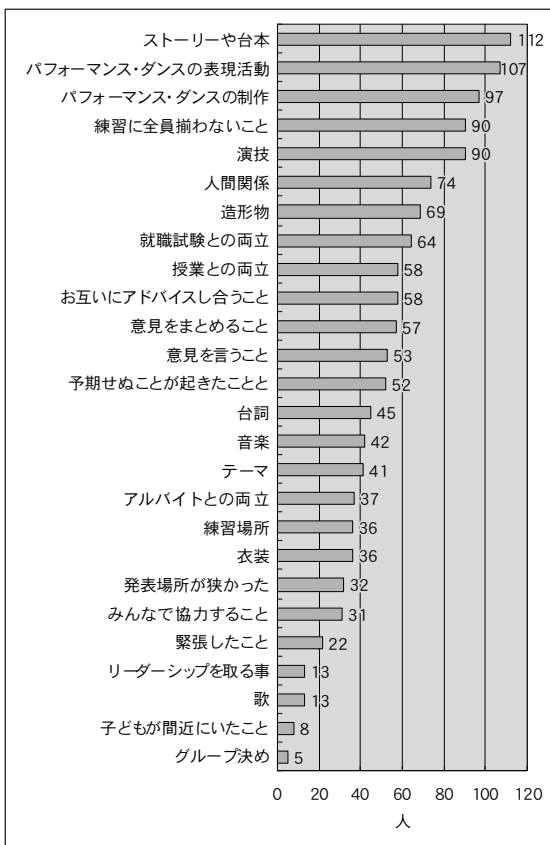


図41 どんなことが大変だったか

次に「力がついたと思いますか」という質問には多くの学生が力がついたとしている（図42）。その身についた力とは、「表現力」、次に「柔軟な発想力」「計画・企画力」「コミュニケーション能力」とある（図43）。これらは前述の学生の大変であったことと重なる。苦労をしてそれらを乗り越えたことによって、学生たちは力がついたと感じている。

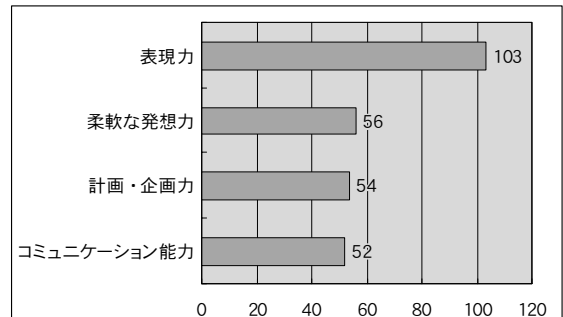


図43 どんな力が身についたか

「この活動が現場に出たときに役立つと思うか」という質問に多くの学生が役立つと回答し（図44）、役立つ場面としては「お楽しみ会・運動会・お遊戯会などの行事の企画・準備・子どもの指導」とあるように（表4）、子どもたちが行う表現活動、特に行事として発表する場面を想定している。出張公演で自分自身が表現活動を経験したことによって、自信を持って子どもたちの表現活動を指導できていると感じているようである。そして、次に「先生だけの出し物をするとき」「子どもたちの前で話をするとき」、自分自身の表現力が問われる場面を挙げている。出張公演で身につけた表現力がこれらの場面で活きるのではないかと学生たちは考えている。また「普段の保育のあらゆる場面で」という答えもあり、保育士という職業自体が表現力を必要とされる職業とし、日々の保育でこの経験が活きると考えている。このような子どもや自分自身の表現活動の場面以外に、「先生同士の人間関係」「他の先生と協力して仕事をするとき」と、職員同士の人間関係において、コミュニケーション

ン力や協調性が役立つとする意見も見られ、複数の職員と協力して仕事をするの多い保育の現場を見据えた意見となっている。

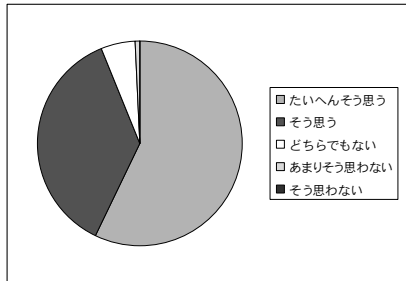


図44 役立つと思うか

表4 どんな場面で役立つと思うか

主な意見	人
お楽しみ会・運動会・お遊戯会などの行事の企画・準備・指導	76
先生だけの出し物をするとき	15
子どもの前で話をするとき(子どもが聞き入るような話し方、大きな声)	15
普段の保育のあらゆる場面で	12
先生同士の人間関係	8
他の先生と協力して仕事をするとき	8
造形物の制作活動	7
人前で話をするとき(人に自分の言いたいことを伝えるとき)	6
子どもの反応に柔軟に対応するとき	6
職員会議などで話し合ったり自分の意見や考えを言うとき	6
衣装の制作	4
子どもたちが楽しむポイントや準備として何が必要かわかった	3
子どもができるダンスや動きを考えるとき	3
手遊び、絵本や紙芝居をするとき	3
人生を過ごす中において	2
限られたスペースで表現するとき	2
子どもの想像力を活かして活動を進める場面	1
ゲームをするとき	1

(3) 協力園アンケートによる最終ステップの振り返り

これまで学生のアナケートについて見てきたが、次に出張公演に協力を得た園側がこの活動をどのように捉え、この活動が学生にとってどのような学びとなると考えているのか、協力園のアンケートより明らかにする。

まず、「出張公演に協力して良かったか」という質問には、アンケートに協力頂いたほとんどの園から「協力して良かった」(表5)、そして「満足できる公演であった」(表6)と好意的な評価を頂いた。

表5 出張公演に協力して良かったか

		園数 (園)
A	たいへんそう思う	6
B	そう思う	1
C	どちらでもない	1
D	あまりそう思わない	0
E	そう思わない	0

表6 ご覧になって満足できる公演だったか

		園数 (園)
A	たいへんそう思う	4
B	そう思う	3
C	どちらでもない	1
D	あまりそう思わない	0
E	そう思わない	0

具体的にどんな点が良かったかという問いには「ストーリー」「テーマ」とあり(図45)、学生が大変であったと挙げた「ストーリーや台本」が良かった点として挙げられた。また、この公演を通して学生にとってどんな力が身についたかという質問には、「表現力」「計画性」「企画力」「コミュニケーション能力」等の回答が寄せられた(図46)。

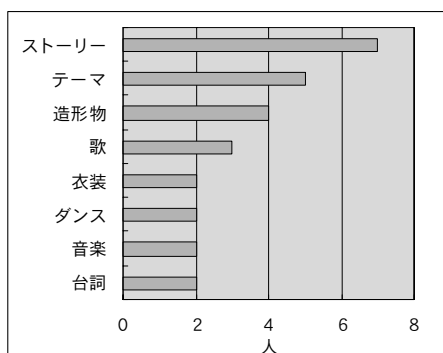


図45 どのような点が良かったか

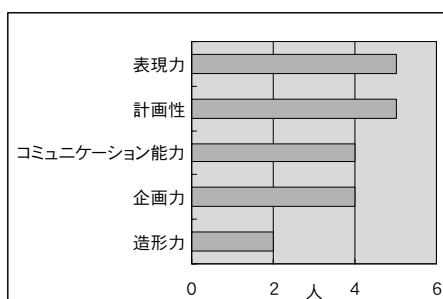


図46 どのような力が身についたと思うか

そして、このような活動が「どんな場面で役立つと思うか」という質問には、「表現力はとても役に立つと思います」（表7）とあるように、身についた「表現力」が保育をする時に役立つという意見があった。また「保育に活かされることはもちろんのこと、連絡調整の手続きの方法など、社会に出た時に活かされることがあると思います」とあり、職員同士、保護者などいろいろな年代の人とコミュニケーションしなければならない保育士の仕事において、この経験が活かされとする意見も寄せられた。さらに「子ども達が夢中になって観ていたこと、大きな自信になったのでは」との回答より、この公演での子どもとの関わりで保育を志す気持ちが強まり、保育士として頑張る気持ちにつながるのではないかという考えも伺い知ることができた。

以上のような園側の意見から、これらの表現活

動の経験は学生たちにとってこれから保育していく時の原点となり、保育士としての心構えを養うことになっていると考えられる。

表7 どんな場面で役立つと思うか

グループで協力し、一つの作品にまとめ、発表すること
表現力や自分の声がどれくらい通るかなど、子どもの反応をその場で見られたので良い経験になったのではないでしょう
表現力はとても役立つと思います
人に観てもらうためにものをつくりあげる力につながると共に、協力し合うことの大切さも学んだのではと思います。同年代だけでなく、他の年代とのコミュニケーションに積極的に関わっていける力になる
子どもの笑顔は全ての仕事の活力になります。子ども達が夢中になって観ていたこと、大きな自信になったのでは？
保育に活かされることはもちろんのこと、連絡調整の手続きの方法など、社会に出た時に活かされると思います。
豊かな表現力を身につける。子どもとの心の交流の大切さ。
子どもの反応をよく観察することから自分の保育について省みることは現場で日々必要ですので、そのように子どもの反応を感じていただけた点です。

5. 今後の課題

この表現発表で学生が充実した学びの時を得、それが現場に繋がる道しるべとなっていることは貴重である。又、地域社会からも保育士養成校として、あたたかい理解と評価を頂けることは、今後の活動のエネルギーとなるところである。しかし、2年間というタイトなスケジュールでの「表現発表」のあり方については、学生の資質に合わせていかに内容を充実させるか、また学生への負担の軽減などが課題であり、グループ数と内容の

精選を計り、質の高い作品制作への指導体制を検討する必要がある。より良い保育者の育成に繋げるために、本プロジェクトをどのように継続させるかを見据え、その動向のなかで常にきめ細かく精神性を持って教育に携わっていく必要性を強く感じるものである。

最後になりましたが、本プロジェクトを進めていくにあたり、ご協力頂きました教員の皆様をはじめ、事務局の皆様、各保育園、幼稚園の先生方に、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

参考文献

嶋崎 善明 「幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）」
第3版第4刷 2001.1.15 株式会社チャイルド社